

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	生体工学特論		
英文授業科目名	Advanced Bioengineering		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-知能機械工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	知能機械工学専攻		
担当教官名	本間 恭二		
居室	東4-729		

公開E-Mail	授業関連Webページ
homma@mce.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>生体工学は、自然界に存在するシステムを解析し、これを新しい工学システムに取り入れることによって、設計や開発に役立てたり研究の手段として利用したりすることを目的とした学問領域である。生体の多様なシステムは、その解析だけでも膨大な時間と労力が必要であるが、多様性の謎が次第に解明されてきている。博士後期課程の学生を対象にした本講義は、学生の自主的な勉学意欲とプレゼンテーション能力を高めることを目標に、ひとつのテーマ決めて調査研究を行って報告書を作り、これをもとに発表・討論する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特に前もって履修しておくべき科目はない。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
生体についての知識はあるに越したことはないので、バイオメカニクス入門、バイオメカニクス特論の講義を履修しておくが良い。

【教科書等】
なし

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

漫然と講義を受け、単に知識を詰め込んでも、実社会ではそれらの知識は役に立たないことが多い。それは問題点をきちんと把握する力がついてないことに起因する。そこで本講義は、テーマが与えられたとき、その内容を理解し、どのような方法で情報を集め、それを進めて行くかについて、担当者からアドバイスを受けながら行うことで、問題点を把握する力が自然に身に付くよう考えられている。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

与えられたテーマを自分なりに的確に把握し、これをまとめることができたかと云う点と、プレゼンテーションが適当であったか、について評価を行う。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜

【学生へのメッセージ】

的確な情報を収集し解析する力と、その内容を第三者に正しく伝える説得力は、最高学府の修了者に期待されている能力なので、今のうちに訓練しておくことが肝心である。

【その他】